

有休減らさず 子育て応援

子どもが熱を出したので休みます。資料作成など業務請負のラッシュ・インターナショナル(名古屋市)は、そんな子育てを理由にした休暇を有給休暇扱いにしない制度を導入している。中部の中小企業にも長時間労働削減など働き方改革の取り組みが広がる中、チームで情報共有して助け合うなど生産性を維持して女性の活躍を促す同社の工夫は、お手本になりそうだ。

(曾布川剛)

名古屋の企業 チームで支え合い

子育てしながら働く女性に取得できなくなる。ウェブサ
とって、子どもの急病などで イト運用やパンフレット制作
仕事を休む場合は有休を使わ などを手掛けるラッシュは、
ざるを得ないのが一般的。だ 三十五人の従業員がほぼ女
が、子育てで消化してしまう 性。二人の子どもを育ててい
と旅行など他の理由で有休が た倉田満美子社長(五〇)が二〇

〇二年に会社を設立した当初から子育てと仕事を両立できるようにに制度を始めた。

学校行事なども含め、子育てを理由に休暇、早退、遅刻しても規定の有休日数は減ら

ないため、有休の残りを気にせず休むことができる。納期遅れなど業務に影響が出ないように二、三人でチームを組む、メールなどで常に情報を共有。子育て中の社員と子育てを終えた社員がチームを組むなどバランスも考慮している。

小学一年の長女を持つ女性(三〇)は以前の職場では子育てで年に数回は有休を取っていたが、「このままじゃ評価されない」と悩み、三年前にラッシュに転職。休みを取りや

すくなり、「子どもがいるからといって与えられた仕事に甘えは許されませんが、仲間の業務を把握していれば方が一の時に補いあえる」と働きやすさを実感する。

同社はデザインなど女性らしい提案が好評で自動車メーカーなど大手企業にも取引を拡大。倉田社長は「社員には子育てしやすい環境を提供しているので、最大限の成果を求めている。一人で仕事を抱え込まないことが働き方改革の第一歩」と話す。



メールなどで情報を共有しながら助け合って仕事を進めるラッシュ・インターナショナルの社員=名古屋市中区で